

「キュウリ・メロン退緑黄化病（仮称）」の発生に注意しましょう

ウリ類退緑黄化ウイルス（Cucurbit chlorotic yellows virus；CCYV）によるきゅうり、メロンの退緑黄化病の発生が九州地方で確認されています。

本県での発生はまだ確認されていませんが、本病はタバココナジラミバイオタイプQで媒介されるので、下図のような症状に注意しましょう。

キュウリ・メロン退緑黄化病とは？

きゅうりでは、はじめ葉に退緑小斑点が生じ、斑点が増加・癒合しながら黄化、拡大して斑状の黄化葉となります（写真1）。病徴が進行すると、葉脈部分の緑色を残して葉の全面が黄化し、葉縁が下側に巻く症状が認められ、草勢低下と減収が確認されています（写真2）。



写真1 キュウリの初期症状



写真2 キュウリの末期症状

メロンでは、きゅうりと同じ症状ですが、果実糖度および果実重量の低下が確認されています（写真3、4）。



写真1 メロンの初期症状



写真2 メロンの末期症状

感染植物及び伝染方法は？

感染が確認されている植物はきゅうり、メロン、すいかです。

また、本ウイルスの媒介虫はタバココナジラミバイオタイプQであり半永続伝搬します。経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染、種子伝染はしないため、管理作業等での伝染は極めて低いと考えられています。

防除方法は？

- (1) ハウス内外の除草を行い、タバココナジラミの生息場所を根絶します。
- (2) ハウス開口部に0.4mm目合以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミバイオタイプQの施設内への侵入を防止します。特に、育苗期間から生育初期の感染は経済的に大きな被害につながるため、育苗時や定植時の粒剤施用を徹底します。
- (3) ウイルス感染苗の持込みを防ぐため、苗の購入等に際しては十分な注意が必要です。
- (4) 黄色粘着トラップを施設内に設置して媒介虫の早期発見に努める。防除を兼ねる場合は200～300枚／10a設置します。タバココナジラミが発生している施設では、バイオタイプQに効果の高い薬剤を使用します（表1）。
- (5) 発病した株は速やかに抜き取り、寄生するタバココナジラミとともにビニル袋に入れ、発病株を枯死、タバココナジラミを死滅させてから埋設等処理します。
- (6) 施設栽培では、栽培終了時にハウスを密閉し、高温処理を行い、タバココナジラミを死滅させます。

注意事項

葉が黄化する症状は他の要因による場合が多く、正確な診断には、苗床及び本ぼでのタバココナジラミの発生や栽培管理、前作や周囲の状況等を考慮し、総合的に判断する必要があります。

疑わしい症状が発生した場合は、最寄りの農業振興事務所経営普及部または農業環境指導センターに連絡してください。

表1 きゅうりのコナジラミ類に登録のある農薬

系統名	薬剤名	希釈倍率等	使用時期／使用回数	適用害虫
ネオニコチノイド系	ベストガード粒剤	1g／株	育苗期／1回	コナジラミ類
		1～2g／株	定植時／1回	コナジラミ類
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍～3,000倍	収穫前日まで／2回以内	コナジラミ類
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍～3,000倍	収穫前日まで／2回以内	コナジラミ類
ピラゾール系	サンマイトフロアブル	1,000倍～1,500倍	収穫前日まで／2回以内	コナジラミ類
I G R 系	アブロードエースフロアブル	1,000倍～2,000倍	収穫前日まで／3回以内	コナジラミ類

注1) ベストガード粒剤は、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内。

注2) 薬剤抵抗性が発現しやすいので、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行ってください。

注3) 葉裏に生息しているため、ていねいに薬剤散布してください。

注4) 農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

注5) 登録内容は平成20年3月12日現在のものです。

● 本資料に関する問い合わせ先：栃木県農業環境指導センター ●

TEL 028-626-3086 FAX 028-626-3012